

科学的助言等対応委員会（第25期・第2回）  
議事要旨

日時：令和4年4月20日（水）17:00～18:10

場所：オンラインにより開催

出席者：菱田公一委員長、勝野正章委員、高山佳奈子委員、日比谷潤子委員、溝端佐登史委員、山田八千子委員、神田玲子委員、丹下健委員、相田美砂子委員、高田保之委員、森初果委員、米田雅子委員、平井みどり委員、福嶋義光委員  
増子参事官、荒木分析官、野村補佐、青池専門官

○第1回議事要旨案の確認

意見等がある場合には、今週中に事務局に伝えることになった。

○これまでの進捗状況について

- ・委員長から、科学的助言等対応委員会（以下「委員会」という。）に提出された8件の検討課題等の進捗状況等について概略的に説明した。
- ・現在取りまとめ中の助言案について、取りまとめ委員から説明した。慢性疼痛分科会の検討課題等に関する助言案について了承し、本日付で分科会等の長に送付することになった。放射線・臨床検査・病理分科会の検討課題等に関する助言案について、一部修文した上で確定することになった。男女共同参画分科会の検討課題等及び人文学の国際化と日本語分科会の検討課題等に関する助言案について、意見等がある場合には、今週中に事務局に伝えることになった。

○今後の活動について

- ・委員長から、今後委員会を概ね10週から12週に1回のペースで開催し、役員会については概ね定例で2週間に1回のペースで実施したい旨、発言があった。
- ・委員長から、学術調査員の募集状況について説明があった。
- ・委員長から、事務合理化等の観点からBOXの活用を推進するとともに、委員に使いやすいものとして運用していきたい旨の発言があった。
- ・検討課題等に関する助言案の作成については、査読そのものと異なり、検討課題等がコンセプトとしてどうであるかという観点で、フィルタリング的に確認を行うのがよいとの意見があった。
- ・各部の取りまとめ担当者について、今後呼称を統一していくことになった。

（以 上）